

和語

叙子部上

八

9
4062
8

門 9
號 4062
卷 8

傳誦語卷第百錄

祝氏部上

聖德太子

役小角

惠隱

智通

義成

義測

玄昉

泰澄

聖寶

弓削淨人

定惠

智達

法截

道應

素性

寬靜

永觀
美提
慶後
宜也
寂澄
慈訓
守敏
圓仁
圓珍
相應

行基
法進
良禪
鑑真
宣海
行表
護命
常曉
寬忠
遍昭

行教
良源
十觀
寬宜
時叙
餘慶
性宜
行圓
明尊
性信

益信
淨藏
仲筭
深觀
海信
源信
寬朝
教圓
仁海
源筭

行尊

西山

解脫

觀觀

德一

覺尋

後惠

文覺

覺阿

信室

行觀

覺鉸

覺猷

尋禪

明遍

慈園

嚴秀

明菴

源室

宗西

良忍

貞慶

延朗

為威

行宣

自覺

高辨

明禪

俊宗

寬憲

俊芳

能惠

道元

圭峯

顯性

敬佛

法園

真宗

寬憲

倭論語卷第八

叙氏部上

聖德太子（きんぎょ）室勅（むち）曰七星頂（しちせいとう）よありと文（ふみ）にききとわ
るる五（ご）約（やく）身（み）にさかちきあきそ非（ひ）礼（れ）をさ
とくくらへ

又曰（またい）ろつよ乃人を助（たすけ）いかさんとするものハ人
乃飛（と）といまひきなり。ろつづ乃人の氏教（しきょう）一
かんとおりのものハ人乃飛を捨（すて）つとなり
又曰人乃ききひわさひひもと稚（たね）子（こ）おけき
きき乃ききおられつと玉（たま）の緒（いと）のちうさ。さうい

と此のときへひと知るが

大友皇子孫葛野王子也醍醐山延喜元七

月六不知行方観音應化

役小角曰一箇浮提乃守護神に有田神は四神は

あ結乃はく銭やめて破戒乃あぐりききよ

くも生れ乃穢ととれんも造罪の答と

いじぐとが

舒明天皇六年正月朔生

弓削浄人曰もろくろ人魔カ乃くす時へさる

ふもりも世に用むくがて人あさるものなり

善い薩すく六度をしる時大いありをゆも是
魔乃あふ所佛の室ひなり穢れを祓うん
ものへ富きは乃あるうらさけなり

天智天皇御子也大禪師任太政大臣法皇位也

惠隱曰布施乃約二言乃下いあり人の同よりす

かほよえハ皆ハ布施乃むなり

乃胎曰はくも時ハ禁忌の事ありおひ音氏修す

るを清淨乃事とてゆものなり

定惠曰世にむくき物多し物多し物多し物多し

小趣あてお今定哲乃書を人あ人の佛并ん

内院を不^ち知^らず。して井^いき物^{もの}なり。
智^ち通^{つう}曰^い佛^{ぶつ}乃^{すなは}て来^きる人^{ひと}の智^ちに福^{ふく}業^{ごう}を修^{しゆ}す
時^{とき}ハ大^{だい}なる如^{ごと}く井^い乃^{すなは}て大^{だい}なる智^ち賀^が乃^{すなは}て福^{ふく}田^{でん}
を^をくま^{くま}り

知^ち達^{だつ}曰^い諸^{しよ}佛^{ぶつ}并^ひに供^くす物^{もの}を^をく^く由^{よし}或^{ある}會^{かい}歎^{たん}ふ
な^な下^げ功^{こう}徳^{とく}量^{りやう}なり

義^ぎ成^{じやう}曰^い佛^{ぶつ}を念^{ねん}じて余^よ約^{やく}かく二^に六^{ろく}時^じ中^{ちゆう}ある人^{ひと}ハ
大^{だい}福^{ふく}徳^{とく}を^をく^くものなり。お^お人^{ひと}の生^{なま}を^をく^くす^す多^たし
法^{ほふ}花^け曰^い一^{いつ}乃^{すなは}て約^{やく}かくすものハ百^{ひやく}を^をく^く消^{しょう}えぬぞ
と、ハ^は星^{せい}火^かを^をく^くう^うて聚^{しゆ}散^{さん}を^をく^く焼^{やう}が如^{ごと}く

義^ぎ測^{そく}曰^い持^ぢ戒^{けい}乃^{すなは}て偽^ぎ人^{にん}に物^{もの}を施^せハ犯^{はん}戒^{けい}乃^{すなは}て偽^ぎ人^{にん}可^か
人^{ひと}も^も偽^ぎ人^{にん}なり。施^せ乃^{すなは}て偽^ぎ人^{にん}なり

乃^{すなは}て應^{おう}曰^い百^{ひやく}佛^{ぶつ}を供^く養^{やう}せん^ん人^{ひと}乃^{すなは}て大^{だい}徳^{とく}人^{にん}を
供^く養^{やう}せん^ん大^{だい}に^にの徳^{とく}なり

玄^{げん}勝^{しやう}曰^い世^ぜの事^{こと}足^{たり}ぬ人^{ひと}ハ大^{だい}福^{ふく}長^{ちやう}者^{しや}なり。ふ^ふ足^{たり}
人^{ひと}を^をく^く家^け乃^{すなは}てありとも大^{だい}貪^{こん}心^{しん}あり

系^{けい}性^{しやう}曰^い智^ち恵^ゑ乃^{すなは}て大^{だい}智^ちなり。其^{その}提^{だい}の^のま^まあり
智^ち恵^ゑ乃^{すなは}て大^{だい}智^ちなり。其^{その}提^{だい}の^のま^まあり

桓^{くわん}武^ぶ天^{てん}皇^{かう}皇^{かう}子^し良^{りやう}峯^{ほう}王^{わう}孫^{そん}也^や奇^き人^{にん}大^{だい}和^わ國^{こく}布^ふ
苗^{めう}住^す

泰澄曰。昔恨八回。向乃一念。いふもて。予君あり。法
常。女時へむ。わう。志
寛静曰。唯終乃時。お。佛。乃。お。ぬ。を。お。り。る。う。か。か
ら。ひ。念。ふ。も。て。生。ひ。ひ。げ。ん。なり。

嵯峨天皇才六宮定親王孫從五位上肥前守
淳子也東寺長者權僧正

永觀曰。俗人なり。や。や。と。佛。を。念。ふ。も。て。の。か
よ。ふ。は。一。と。さ。太。刀。と。よ。う。と。あ。つ。ま。の。俗。なり。世。家
なり。と。い。ふ。も。佛。を。念。ぜ。さ。は。い。も。の。ハ。衣。を。さ。さ。り
ら。大。俗。なり。佛。ハ。衣。さ。り。衣。生。ハ。体。と。さ。は。なり。

新基曰。も。つ。く。乃。法。と。か。ん。事。あり。と。き。つ。と。又
や。も。つ。く。事。あり。と。き。切。終。子。成。就。を。い
又曰。戒ハ。方法。乃。師。なり。三。世。の。諸。佛。も。是。い。ふ。も。て
真。地。を。い。ふ。なり。

又曰。仏。并。乃。戒。終。乃。あ。て。終。と。あ。と。と。と。い。ふ。こ
又。さ。は。も。の。り。は。海。さ。り。と。り
其。提。曰。一。念。不。生。す。か。つ。ら。な。け。く。佛。ハ。一。念。不。念
乃。二。心。と。と。り。て。正。如。來。を。み。か
法。進。曰。念。と。は。念。に。即。ち。て。念。なり。修。終。終。を
終。氏。乃。法。を。い。ひ。と。ひ。と。又。と。お。り。

らひて。此作しやうをよりしとせられし。最さい沈ていは初はつ々しやう
は衣食いしょく乃なり中ちゆうは乃なりををかへ。乃なり中ちゆうは衣食いしょくあり
来き世せは亦またかへく。び道みちををとてあへ。衣食いしょく乃なり二に事じを
そのづゝある。来き世せは及およひ山さんをとらへ。奇き妙みやく
をとり信しんををとていへ。若わかく其その甚しんしくある。予よ
ぞ乃なり時とき吾われ信しんの中ちゆうにあり。乃なり信しんををとていへ。計けいんし
のなり。乃なり信しんの中ちゆうにあり。乃なり信しんををとていへ。計けいんし
とらへ。乃なり信しんの中ちゆうにあり。乃なり信しんををとていへ。計けいんし
かまへ。乃なり信しんの中ちゆうにあり。乃なり信しんををとていへ。計けいんし
なり。

属乃春秋なり

又曰史家教乃中書ハ公法として公法は公文

ハ是瓦礫又字ハ是糟粕なり

又曰佛祖不傳乃妙をばさる人ハ一代乃法を説き

多者なりあはひ

又曰公をわきまて公法をり言をわきまて言を

或時人

或時人る不立公法を免は

或時人る不立公法を免は

嵯峨天皇御飯依僧高野開基号弘法大

師

慈訓曰法を修むる人解急あまて法を又急をむ

かり是にゆりて常任ふ近乃法をさるる也

の表曰千章万句を誦せんより一句をさるるハ

あつてさるるさるるの文字法かろへみるハ不盡更

あ一益あつたをわきまのハ是一句を弁ふ也

守敏曰とんく乃人法法修りて教を成せりといハ

園中に宝珠をゆりてあつて甚ま言乃燈をとりて

是を求るハ切を修りて東地のあつたゆりて

ものなりたつて一代乃説法を空に説く言

時まじにまじ法ほふひひしくしく成なり就しゆああくく自みづか在ざい魯ろ海かいなるなる事こと。日
 月げつ乃なほ世よ常じょう成なり照てうるる如ごとくく。そそとと人ひと諸しよ法ほふをを修しゆめめるる
 ととののああるるままとととと。大だい乃なほををめめるる事ことかかしし。大だい乃なほををめめるるん
 そそ一いつ生せい何なん乃なほめめるるああるるん

又曰。亦^{また}乃^{なり}流^{りゅう}人^{にん}中^{ちゆう}小^{せう}ま^まり^りて^て告^こ悉^{しつ}を^を
 多^たく^くも^もい^いん^んや^や俗^{ぞく}家^けの^の告^こ悉^{しつ}を^をや^や人^{にん}の^の告^こ悉^{しつ}を^を
 か^かこ^こらん^{らん}もの^のハ^ハ世^{せい}の^の飛^と大^{だい}海^{かい}乃^{なり}と^と必^{かならず}未^ま世^{せい}に^に及^{およ}て^て
 尚^{さう}山^{さん}乃^{なり}流^{りゅう}人^{にん}中^{ちゆう}小^{せう}ま^まり^りて^て告^こ悉^{しつ}を^をや^や人^{にん}の^の告^こ悉^{しつ}を^を
 も^もの^のか^かこ^こらん^{らん}は^は魔^ま乃^{なり}属^{ぞく}する^{する}なり^{なり}一^{いつ}を^をを^をむ^む
 あ^あく^くち^ちん^んもの^のハ^ハみ^みつ^つもの^のを^をみ^みらん^{らん}

遍昭曰^{えんしやう}いし生^{なま}乃^のちもも乃^のちよ。来^き事^{こと}も過^{あやま}ちを絶^た
ちる事^{こと}ハ佛^{かみ}乃^のちもも一^{いつ}たももも。あききききき
ふりてもももて是^{こゝ}とあきききき今^{いま}かき業^{ごう}の
よにちるももめん^{まじん}人^{ひと}乃^のちあききき人をみるに
ていづりからききんや

乃教曰。たゞひ如来。乃教法を説く。て三つあり。
 一。自互を悟るとも。吾神明乃授ふ。そひて。ゆるん。まの
 ひるぐ。冥加ある。く。ひ。付。八幡。大井。ハ。大。慈悲。の家。
 に。教。と。う。つ。ま。実。戒。所。の。偽。と。ち。り。け。り。を。ま。れ
 と。お。常。に。け。り。か。て。る。を。大。慈。薩。に。回。せ。り。

て知るなり。是吾神明乃業と云ふ事と云ふ事
つ。世傳知あるに神にやうかゝるるハ知る
や。神位乃るまゝと云ふ事と云ふ事と云ふ事
らうなりなり
益信曰。世乃人の貪福ハ世に福乃に福にあり
なまハその福のうもまハ世に福と云ふ事と云ふ事
飛ハ福乃のうもまハ世に福と云ふ事と云ふ事
はまはなまハ世に福と云ふ事と云ふ事
びやうやうハ世に福と云ふ事と云ふ事
みか飛福ハ世に福と云ふ事と云ふ事

一唯あひとかさうかたなり

孝元天皇廿一世從五位下山城守紀兼弼三男也
号後城寺大僧正号本覺大師但四大師之外押
而宗門人謂之平

聖寶又曰人として乃る者なりて世にありあがり
も又と云ふ乃悪と云ふ事と云ふ事と云ふ事
く大家と云ふ事と云ふ事と云ふ事
吾と云ふ事と云ふ事と云ふ事

宇多天皇御叔依僧醍醐山也

良源曰。又天名宗派傳と云ふ事と云ふ事

神皇正統記の海乃はるるあつたまの神は徳姫
御子一やそ

云乃和は浪るるあつたまの神は徳姫
寛宣曰。そとて人乃をよめりて。又用ひて
乃一物とて人乃を害とれん事ハ施なりとてあ
ぢうふくひんをぬくまゝ一免り
深寛曰。富貴めし人乃物を施さぬ人ハ。末來貧窮
乃種成る人なり。施もハ福徳ハ種をばく。富
貴めして貧窮乃そとてよめりてあつたまの神は
花山院才三皇子也。号。禅林寺。石山寺。座主也。

時叙曰。人乃がて後世をあらそ。おろしき
人乃。おろしきと。源中。小孫。あつたまの神は
りけ。か。と。海。よ。と。そ。らん。や。さ。ま。く。ハ。ん。ま。乃
み。り。な。り。と。人。乃。を。よ。め。り。て。あ。つ。た。ま。の。神。は。徳。姫。
ま。り。な。り。と。人。乃。を。よ。め。り。て。あ。つ。た。ま。の。神。は。徳。姫。
出。ち。り。な。り。と。人。乃。を。よ。め。り。て。あ。つ。た。ま。の。神。は。徳。姫。
よ。め。り。て。あ。つ。た。ま。の。神。は。徳。姫。

宇多帝之孫雅信五男也。遁世住大原常
多門。天來。修。勝。林。院。系。創。
海。信。曰。常。は。因。を。食。ふ。と。あ。つ。た。ま。の。神。は。徳。姫。

一て志をらく観るに毎々害乃を多し戒の
而一を偽へ一言と殺生乃言ふあり此其めん
外なるがく一多事にあつてや天竺にてその
烈然あつて事なり

右大信雅信云才八子也沙門許牛車事從是
始也

餘慶曰惣と云へ三毒なり吾と云へ三毒なり此を
つべ三乃ものハ徳志を人をもあつて徳が人をも
まふなり

源信曰衣食住乃三親をある人をもあつて

仏をゆるむるの各口海にあつてものなり
源信得道乃後名利の二字をほのめたる
まふなり常に人に向ふ必がなり此ハお
そむとされハ内證をある人をもあつて内明
して外のそむあるものありやいなり

慈惠大師才子号慈心僧都是也

性空曰一人乃佛を倍養一佛の破壊を造つて
乃經文の願字と書あり石佛乃大中に埋あり
をかくし出し一言乃法域あるなりみせたりやの
とせしめし乃石固あるなりなりやいなり

そとていなりなり
性信曰。人をして像來仏と信ずるは。其の
いん甚感願とす。人をして慈と施と福祿と
を。より。いと。宝珠と。あ。ふ。る。より。より。其
は。事。ある。より。なり。その。い。事。の。より。なり。
源真曰。一仏。一。その。独信。其。れ。お。ふ。人。を。く。の
佛。是。を。く。信。つ。より。なり。ゆ。へ。も。百。あり。後。を。け。て
一人。は。く。是。を。み。る。より。なり。い。け。は。乃。後。を。み。る。より。なり。
秘。し。く。より。なり。なり。
然。る。に。い。わ。る。より。なり。その。は。其。実。乃。偽

なり。なり。い。け。は。乃。なり。の。学。文。乃。より。なり。ぬ。信
ハ。事。の。其。学。文。乃。なり。は。より。なり。無。事。なり。なり。
なり。なり。人。中。乃。愛。する。より。なり。ハ。一生。なり。なり。
は。い。なり。なり。なり。なり。なり。なり。なり。なり。なり。
なり。の。事。なり。なり。物。ハ。事。ハ。吾。なり。なり。なり。なり。
なり。の。事。なり。なり。なり。なり。なり。なり。なり。なり。なり。
なり。なり。なり。なり。なり。なり。なり。なり。なり。なり。
なり。なり。なり。なり。なり。なり。なり。なり。なり。なり。
ハ。家。業。なり。なり。月。日。なり。なり。なり。なり。なり。なり。
なり。なり。なり。なり。なり。なり。なり。なり。なり。なり。

小一条院之子從三位基平四男也号平

等院修驗名徳人云

仍觀曰。毎日。少。弘。乃。何。の。言。ん。交。毎。一。念。心。して。今。そ。は。世。に。う。り。た。り。お。も。ひ。て。信。を。肝。に。銘。を。て。死。て。み。る。や。あ。は。毎。日。執。り。志。を。進。べ。い。ひ。と。な。く。し。世。乃。善。む。と。そ。て。善。徳。乃。実。徳。よ。り。実。徳。云。ふ。か。あ。り。

三条院第一皇子小一条院才七子也号錦織信

正住三井寺

西山曰。人念佛。中。て。極。後。小。佛。よ。り。や。う。な。る。う。い。一。

切。乃。主。言。及。經。卷。が。ら。び。は。室。号。一。公。は。唱。經。の。高。神。の。良。佛。なり。ま。あ。ひ。て。外。よ。求。て。功。を。ほ。る。し。あ。諸。公。乃。志。弘。の。中。そ。必。退。轉。乃。お。う。へ。は。う。は。う。代。あ。ぬ。持。か。わ。う。く。お。求。て。后。を。い。ひ。し。人。を。ば。う。乃。お。う。あ。う。く。唯。は。し。ひ。に。あ。う。と。あ。う。が。

覺鑊曰。凡。大。日。覺。王。乃。内。院。と。う。り。正。乃。是。大。日。遍。照。る。事。と。わ。さ。ま。な。へ。仍。位。座。外。乃。高。神。と。く。あ。と。邪。説。は。あ。ま。の。ま。た。ど。何。の。偽。ハ。お。傳。ふ。ハ。先。哲。め。を。う。り。され。し。男。乃。あ。さ。あ。い。左。家。乃。人。う。り。と。

和言言在ノ

廿二

朝臣ヲ人也

徳とく一いち曰いは智ち者しやと云ハ別べつ乃物小ものこあらハ惡わるをとりて
あある者もののともとああるものとも又別べつの物ものは
あらハ其の道みち改かへむ人の上うへ乃なりつひく吾われ氏しは
とめと曰いは改かへむ送おくるのなり世よに惡わる乃なり聖よみと云
と人ひと我われも吾われは蘭らん乃なりと云

大納言藤原仲實九男号徳一菩薩全山田
于今終不爛懷云

[illegible]

少納言藤原信西（十二男也）号室阿弥施佛
覺尋曰（行者乃云）此乃何中主言哉（云々）
是仏云と行者乃云とあひ合ふなり
るに經讀念仏すとては觀念代がより小

やと^{いふ}一^ふふ^ふよ^ふ人^ふ曰^ふ曰^ふの^ふさ^ふん^ふや^ふ念^ふ仏^ふ
一^ふた^ふふ^ふや^ふや^ふ一^ふ
又^ふ曰^ふ者^ふ人^ふ乃^ふを^ふの^ふま^ふし^ふと^ふの^ふ智^ふ恵^ふい^ふま^ふし^ふ
て^ふら^ふき^ふ極^ふ未^ふ試^ふ未^ふ一^ふう^ふや^ふと^ふ念^ふと^ふ此^ふ世^ふの^ふる^ふ
を^ふく^ふ終^ふ一^ふも^ふと^ふの^ふま^ふし^ふと^ふの^ふあ^ふと^ふ海^ふ一^ふと^ふま^ふし^ふ
い^ふか^ふう^ふと^ふの^ふ一^ふみ^ふう^ふと^ふの^ふば^ふま^ふの^ふ世^ふの^ふま^ふ乃^ふこ
し^ふく^ふ乃^ふ智^ふ恵^ふを^ふう^ふま^ふし^ふひ^ふけ^ふう^ふと^ふの^ふな^ふ来^ふ乃^ふ智^ふ
恵^ふと^ふい^ふと^ふん^ふの^ふの^ふま^ふを^ふう^ふと^ふの^ふひ^ふて^ふか^ふ念^ふ
を^ふと^ふお^ふ持^ふて^ふ後^ふ乃^ふ世^ふを^ふね^ふう^ふと^ふの^ふお^ふう^ふと^ふる^ふ
う^ふれ^ふん^ふと^ふの^ふあ^ふ乃^ふか^ふと^ふあ^ふの^ふ一^ふて^ふな^ふう^ふと^ふ

は^ふ一^ふと^ふ成^ふら^ふを^ふう^ふん^ふま^ふう^ふの^ふあ^ふ

本^ふ朝^ふ淨^ふ土^ふ用^ふ基^ふ法^ふ然^ふ上^ふ人^ふ是^ふ也^ふ要^ふ中^ふ注^ふ音^ふ等^ふ大^ふ
師^ふ授^ふ極^ふ樂^ふ往^ふ生^ふ妙^ふ有^ふと^ふ
信^ふ宣^ふ曰^ふか^ふ念^ふを^ふと^ふう^ふと^ふと^ふ一^ふを^ふと^ふし^ふま^ふし^ふ
あ^ふく^ふみ^ふの^ふお^ふね^ふを^ふね^ふひ^ふな^ふう^ふて^ふの^ふの^ふあ^ふ
を^ふ唱^ふふ^ふと^ふの^ふ必^ふ来^ふ平^ふ法^ふお^ふう^ふひ^ふなり^ふ人^ふ邪^ふなり^ふ
か^ふ乃^ふと^ふの^ふ一^ふか^ふの^ふ一^ふと^ふの^ふあ^ふと^ふの^ふあ^ふと^ふの^ふあ^ふ
あ^ふく^ふみ^ふの^ふ信^ふを^ふう^ふと^ふの^ふあ^ふと^ふの^ふあ^ふと^ふの^ふあ^ふ

中^ふ宮^ふ大^ふ丈^ふ行^ふ隆^ふ朝^ふ臣^ふ八^ふ男^ふ也^ふ法^ふ然^ふ上^ふ人^ふ亦^ふ可^ふ也^ふ
衆^ふ西^ふ曰^ふ佛^ふ見^ふ法^ふ見^ふの^ふお^ふと^ふの^ふお^ふと^ふの^ふお^ふと^ふの^ふお^ふ

胸中に一物ある。廓然虚明にして。三世十方を
遍覧する。是の一法にして。人よあはれ。こも
りか。生滅乃ち力なきを。て。妙法説く。を。説
く。教を説く。是。北海の中。は。落
佛。世法。若。樂。乃。唯。一。法。を。う
り。つ。と。是。大。乃。乃。の。大。を
也。是。特。識。乃。は。并。り。それ。工。吏。用。を。い。ふ
る。衆。徒。を。て。ある。言。乃。乃。の。あ。る。べ
し。若。人。利。智。存。信。し。て。工。吏。を。廢。忘。せ
ん。は。あ。る。凡。性。情。乃。は。中。

源筆又曰。法花をたふし。六。實。乃。體。固
果。乃。宗。妙。意。の。用。と。能。解。不。あ。る。若。辱。乃。衣
を。と。諸。法。空。如。座。を。坐。一。大。慈。悲。乃。空。を
入。る。の。と。海。を。入。る。の。三。身。を。あ。る。の。と。な。り
良。忍。回。念。佛。三。昧。に。入。ぬ。と。い。ふ。乃。は。心。の
う。ゆ。ふ。系。連。し。諸。天。若。神。毎。日。に。護。一。法。を
が。あ。る。と。さ。念。仏。を。つ。と。あ。る。の。と。い。ふ
と。の。と。い。ふ。乃。は。妙。法。を。う。る。乃。は。妙。法。の
う。と。い。ふ。乃。は。妙。法。を。う。と。い。ふ。乃。は。妙。法。の
と。ん。と。い。ふ。乃。は。妙。法。を。う。と。い。ふ。乃。は。妙。法。の

中御門内府家能く二男也住東大寺得業
 慈盛曰地乃時論らん事をせりあるべし
 乃母中なり又他需はる所を自宅にあら
 せとくせりひがとてひびくも皆大宅
 なりせり之へて恵むる乃あるべし
 乃をせ生れ一を事をせりあるべし
 又恵を僧都にせりなりへて常乃念を
 おくるものへび人なりあるべし
 ありとあるべし
 乃をせとてなりやえりなりなりなり
 乃をせとてなりやえりなりなりなり

て後世なり。と耐乃僧より祖師の語を
とて思量一分を以て戒律を定めてさ
まうやうなり。是末世法なり。人を誨む
大罪人なり。仏一代の流法は一切諸經の旨を
戒律より示すなり。戒律を以てさ
戒律より物ある。大慈大悲の
を以てさる。あまの
とたあらか。耐乃僧より祖師の語を
ありとす。耐乃僧より祖師の語を
ふり。耐乃僧より祖師の語を

